

私は新潟県佐渡島で農業を始めて四年にな
ります。野菜と、柿を中心とした果樹を栽培
し、来年からは米作りもする予定です。よく
東京育ちで実家が農家でもないのになぜ農業
？と聞かれます。私は、佐渡の米がおいしか
たのと、体を動かすことが好きだから、と答
えています。

百姓へ研修先の農家の方が、百の仕事をし
百の作物をつくるから百姓というのだと教え
てくれ、私も好んで使っています。そしてい

ると、この仕事は幅広い知識が必要だし、実
際に色々なことを考えさせられるな、と感じ
ます。栽培一つとして、その地域の気候風
土、その年の天候、土の状態、水の有無など
で育てやすい作物が決まってくる。天候は
作物の出来に大きく影響しますが、それも地
球規模の大気の流れや海水温に左右される。
地球温暖化の問題は避けて通れないし、そう
するとエネルギー問題、ひいてはという着
し方を人間がしていくかというところまで

考えざるを得ません。

私は野菜を育てて四年目、今年気づいたこ
とがあります。それは、「作物は過度で育つ
し」ということです。七月の長雨で、減反田で
育てている野菜は軒並み収量を落としました。
常に冷たい水が根を洗い、地上部が大きくな
れなかったのです。その中で黒マルチをした
ズ、キーニの生育は良く、水が好きな特性も
相まって豊作でした。マルチによって保温で
きたのが大きかったです。いくら肥料をや
ても、根が冷えてしまうと満足に育たないの
だな、と実感しました。

私の畑では化学肥料と農薬を使用しません。
環境・人体そして作物にとって、それらは
害になりこそすれ決して良い影響を与えない
と思うからです。化学肥料を使うと一時的に
生育は良くなります。しかし土中の微生物は
死に、土はボロボロになっていきます。友人
が化学肥料を使ってトウモロコシを栽培した
ところ、三年目に味がガクッと落ちたそうで

す。化学肥料で育った作物は筋、ぽく甘みありません。

化学肥料や農薬のもう一つの問題点は、人間の心理に及ぼす影響です。それらの資材を使うとき、一散布する、が楽しいな、と思う人はいないでしょう。むしろ、「よし、嫌だけど仕方なく」やるか、と気合を入れなければできない作業だ、と思います。私は「仕事はいかに楽しめるかが大切ではないかと考えています。その妨げとなることは極力しない。

そうすれば前向きになれる。余路が出て新しいアイデアも浮かんでくるのではないでしょう。

またほとんどの有機・無農薬栽培の生産者は、農業や化学肥料を使っていることを強調して販売しています。また「自分は特別なことをしている」という意識も強いように感じます。私はこの風潮に疑問を感じています。確かにここ数十年は近代農業が席卷して、いきました。しかし時代と共に消費者の安全・

安心志向が高まり、それに呼応するように減農薬栽培が広がっています。私はこの流れが一層加速し、近い将来化学肥料や農薬を使わないのが当たり前になる時代が来ると思っています。そうなら、た時、もう無農薬は特別なことでは無くなり、付加価値もつきません。どうやって他の農産物との差別化を図り、所得を確保していくか。一つは価格を下げることで、もう一つは栽培方法などは安い方がいいので、そちらを買い、もう一つはただこれでは大量につくらないと生活できません。今のところ有機栽培は手間がかかるので、なかなか大変です。もう一つは生産者個人を買い、てもう一つのことです。「この人の野菜が買いたい」と思ってもうう努力をしなければなりません。

私は年間三十種類の野菜を栽培し、直接消費者に届けています。多種類の野菜の栽培は多くの手間がかかります。常に何種もの作物の生育状況を頭に入れ、いつ頃から出荷できる

そうか、いつ頃までありそうか等、きかれた時に答えられなくてはなりません。多品目作でも単価が上がるわけではないので、経済的にはマイナスです。しかし一般消費者の立場で考えると、同じものが大量に届けられるよりも少量で多品目の方が嬉しいはずで、連作障害を回避する意味でも大切なことだと思います。そして「食べてもう、た人からの、あいしかった」という言葉が自信になり、仕事をやる一番の原動力になります。消費者と

直接つながること、作物に対する評価がダイレクトに返ってくる。そうすると中途半端なものでは作れないし、仕事に対する姿勢も自ずからし、かりしてきます。農協出荷は確かに楽です。ただそれに慣れきってしまった、農産物を何のために生産しているのかを考えなくなるのは良いこととは思えません。現政権は、農業の成長戦略として輸出に力を入れる方針です。自給率四十パーセントを切り、外国から大量の食料を輸入している国

か、なぜ輸出なのでしょう。まずは国内の自給率を高めなければ、何かあって輸入が止まった時に食べ物が足りなくなります。結局はあ金のためなのでしょうが、農産物はいのちをつなぐために生産されるべきだと私は考えています。食べ物が必要なのは人は生きていけません。その原点を忘れて間違、た方向に進むことがないように、私達農業者は気をつけなければならぬでしょう。このようなことを言うときは、それは理想論だと言ってくる人

かいます。お金を稼がなければ生活できない。確かにその通りで、仕事として百姓をしていける以上は農産物をお金に替える必要があり、最低限の生活費は稼がなければなりません。しかしそれ以上の儲けを出す必要はありません。価値観の問題にな、てきますが、私は経済的に豊かでも日々の生活を楽しみ、充実した毎日を送ることが一番の幸せではないかと思うのです。農業の後継者の問題ですが、私の住む佐渡

地域でも、主体的に農業をしている若手は少ないです。青年就農給付金等の補助制度で営農を開始した人、研修を受けている人はちらほら出てきました。しかし補助制度が無くな、た後も続けていくことができるかは、私も含め未知数です。農業普及センターの研修会など、同世代の方々に会う機会があります。皆さん、とてもまじめなので、自分は絶対に農業で生きていく、という覚悟を持った人は少ないように感じます。目指す方向を定

めずに何となくや、ていても、結果は出ないのではないでしょう。私は百姓が本当に好きですし、信念を持って仕事をしています。これから何十年も同じ地域で農業をしていく仲間とはとても大きな存在です。農業は一人ではできない、よくそんな風に言われます。確かにその通りです。さうに言えば、一つの経営体でもできません。民主党から自民党主体の政権に変わり、また大規模化を推進する方向に舵が切られました。

小規模農家切り捨てです。全く現場のことが分かっていないし、どんなに規模を拡大してもアメリカやオーストラリアの何千町歩という経営規模にはかないません。私が日中農作業をしていても、忙しい時期を除いては田畑に人の姿はほとんどありません。いてもあじいさん、おはあさんばかり。とても寂しい感じがします。若者が入、てこない産業は、確実に衰退します。今世紀中には人口百億人を突破し、食糧危機が訪れるのは必至です。そ

してそれは遠い未来のことではないはずで、国内で米が余、ているからと減反し、農家の意欲をそぎ、その姿を見た子供達は農業をしなくなる。こんなことをしていて果たして大丈夫なのかと、心配でなりません。私は自分が楽しく仕事をすること、子供達に農業の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。肉体的にはきついこともありますが、ただ、それを補、て余りあるほどの魅力が農業にはあふれています。うまくいかないこと

の方が圧倒的に多く、正直イライラすること
もあります。しかし失敗をくり返すことでど
うしたううまくいくか考え、工夫するよう
になります。自分で全てのことを考え、実践し
その結果は全て自分に返ってきます。マニ
アルに沿って作業をし、指示されたことをこ
なすのは楽です。でもどちらが創造的か、楽
しいかと問われれば、答えは言わずもかなで
しょう。

私の経営は露路野菜が中心のため、畑が乾
いていなければ作業ができません。ですから
晴れた日は必然的に仕事量が多くなります。
時には朝四時から夜八時まで作業すること
もあります。近所の人には、大変でしょう
と頑張るねーと声をかけられます。私は好
まざって、いるので全く苦になうないのです
か。好きこそものの上手なれ、という言葉が
あります。まさにそれを実感しています。
好きなことのたけなら勉強もできるし、体調
管理をし、かりして次の日も頑張ろうとい

気持ちになります。
これから、生きていくことが大変な時代
になっていきます。環境・食糧・エネルギー
問題など課題は山積し、戦争も無くなりませ

ん。世界中の全ての人達が平和に暮らしてい
ける日は来るのでしょうか。私の場合は農業
ですが、各々が目標を見つけそれに取組む
充実した日々を送っていかれば、自然と争い
はなくなっていくと思います。そして、いつ
かそのような日が訪れることを願っています